

平成28年度 「石狩市教育委員会外部評価委員会」 会議録

1. 日 時 平成28年10月6日(木) 15:30~17:30

2. 会 場 石狩市役所 403 会議室

3. 出席委員

職名	氏 名	役 職 等	備 考
委員長	村中 誠治	石狩ユネスコ協会 会長	急用のため欠席
副委員長	伊井 義人	藤女子大学 人間生活学部人間生活学科 教授	
委員	向田 久美	一般社団法人 アクトスポーツプロジェクト 理事	

事務局 (13名)

生涯学習部長 佐々木 隆哉

生涯学習部次長(教育指導担当) 松井 卓

生涯学習部次長(社会教育担当) 東 信也

生涯学習部参事(指導担当) 濱本 賢一

総務企画課長 安崎 克仁

学校教育課長 菅原 崇喜

教育支援センター長 開発 克久

教育支援センター特別支援教育担当課長 森 朋代

文化財課長 工藤 義衛

給食センター長 成田 和幸

図書館副館長 清水 千晴

総務企画課主幹 松永 実

総務企画課総務企画担当主査 古屋 昇一

4. 傍聴者 なし

5. 議事要旨

～ 開会 ～

安崎総務企画課長

本日はお忙しい中、お集まり頂き誠にありがとうございます。ただ今より、平成28

年度石狩市教育委員会外部評価委員会を開催致しますが、村中委員長が急遽欠席となりましたことから、2名の委員で行います。また、委員長が欠席となりますので副委員長の伊井委員に議事の進行をお願いいたします。

それでは会議の開催にあたり、生涯学習部長よりご挨拶申し上げます。

～ 生涯学習部長挨拶 ～

佐々木生涯学習部長

こんにちは。生涯学習部長の佐々木です。このメンバーで2年目となり、3年任期ですから、ちょうど折り返しということになります。教育委員会事務執行状況の点検・評価にあたって、教育に関して学識経験の在る方のご意見を伺って評価の客観性を確保するという目的で委員会を設置しているところでございます。昨年は、新しい教育委員会制度が始まった年であり、石狩市でも教育大綱の策定や首長と教育委員会の権限が変わりました。これらは、ご存知のとおり大津のいじめ事件が契機となったものでありまして、教育というのは長い時間がかかるものでありますから、そうそう変わるものではないとは言いながらも、時代に即した対応をしていかなくてはならないという我々にとっての大きな警鐘となった事柄であるというふうに考えてございます。このような視点も踏まえ、昨年教育プランに基づいてどのような取組をしたかということを中心・評価の報告書としてまとめました。これに対して外部評価委員の方々には、これまでお時間を割いていただき、いろいろなお意見をいただきました。本日はそのまとめとなろうかと思っております。ご審議のほどよろしくお願い致します。

安崎総務企画課長

それでは、これより先の議事進行を伊井副委員長をお願いいたします。

～ 議題 ～

伊井副委員長

私が外部評価委員になって5年目になりますが、このようなケースは初めてなので不安ではありますが、どうぞよろしくお願い致します。先程部長からも外部評価委員の意義についてのご紹介にもありましたが、3人の限られた委員の中で客観性を確保というのは中々難しいかもしれませんが、少なくとも多角的な視点というか、そういった外部者の視点を持つことによって、本日の評価が出来るだけ有意義な議論となればと思います。それでは議事に移りますが、「教育委員会点検・評価報告書(平成27年度分)案について」事務局よりご説明願います。

古屋総務企画課主査

総務企画課の古屋と申します。本日、皆さまのご意見を頂く対象となります、「教育委員会の点検・評価報告書」の概要を説明致します。構成は、大きく分けて、2つあります。

一つ目は、「教育委員会の活動状況について」です。教育長を含めた5名の教育委員の活動は、教育委員会会議での審議などを中心としていますが、その他にも、教育現場の実態把握や、さまざまな場面での意見交換など、多様な活動をしています。これらの活動については、2ページから7ページに記載しております。二つ目は、「教育に関する事業について」です。平成27年3月に改定された教育プランにおいて設定した、3つの重点テーマにそれぞれ大項目として位置付けた11本の施策の推進方針の中で、その中項目ごとに、関連のある成果指標を示し「分析評価・方向性」を記載し、小項目ごとに「取組状況」と「分析評価・方向性」を記載したものを、8ページから42ページにまとめております。また、ポイントを絞って点検評価を行うため、主に次の3つの事項に関連する関連する施策等についての点検評価を行っております。1つは、教育プラン成果指標、もう1つは、該当年度の教育行政執行方針、最後に、該当年度の主要な施策の成果です、教育行政執行方針、主要な施策の成果は45ページ以降に資料を付けております、以上で「教育委員会の点検・評価報告書」の概要説明を終わります。

伊井副委員長

今、事務局から説明がありましたが、進め方としては、大項目ごとに、また、全体に渡るものは最後に、皆さまから事前に頂いている「ご意見など」を伺いながら、「点検評価報告書に記載する意見」を決めて行きたいと思います。なお、お手元の資料「各委員意見要約」の「扱い」欄に、「質問、感想」と記載のあるものは、既に各委員から、この意見等の取扱いについてそのような意思表示があったものですので、そのとおりに扱います。本委員会は審議会ですので、「点検評価報告書に記載する意見」でない様々なお発言も、すべて議事録に残ります。また、「点検評価報告書に記載する意見」や審議会での発言については、すぐに対応できないものについても、翌年度以降も検討対象として、教育委員会として常に、受けとめてもらっているとのことですので、

それでは、さっそく、議事に移りたいと思います。

1. 教育委員会の活動状況について

伊井副委員長

意見としては、村中委員長から

(No.1)「引き続き、積極的に教育現場の実態把握に努められることを望む。」

私からの意見として、

(No.3)「学校の統廃合、学習指導要領の改訂など、今後様々な変化に直面することから、情報提供・学習の場の一層の充実を望む。」とありますが、報告書を見る限り教育委員の皆様は相当アクティブに活動されているのが率直なところです。

それからもう一点、村中委員から

(No.2)「教育委員会と外部評価委員の意見交換は有意義」という感想がありますが、私自身参加出来なかったので、向田委員からご意見をお願いします。

向田委員

教育委員の方々に、お会いする機会をいただき、私も昨年から外部評価委員という立場になり、本当に一生懸命活動されている教育委員の方々や学校の先生方に対して、一部分しか知らないのに全体のことを意見するのが本当に心苦しいというのがあり、どうしたものかという気持ちがあったのですが、教育委員の方々からは、そういったことは考えないで思ったとおりの意見を素直に言ってもらえれば良いと言っていただきました。少し肩の荷がおりたところがあり、顔が見える関係になれたことが、すごく良かったと思います。

今回の報告書を見ても本当に一生懸命に活動されているので、このまま進めていただきたいです。

伊井副委員長

この感想については、意見として報告書に掲載する内容に値すると思うのですが、いかがですか？

古屋総務企画課主査

この意見交換会は平成28年度の実施となりますので、今回は感想にとどめさせていただきますと考えています。

伊井副委員長

それでは、次年度の報告書の作成の際に、改めて意見を述べさせていただくとういことにしたいと思います。

このほかの意見についても、事務局から補足説明等ございますか？

安崎総務企画課長

教育委員の方々からも児童生徒の授業や学校行事などの様子を見る機会を増やして欲しいとの要望がありますので、事務局としましても出来る限り紹介していきたいと思えます。副委員長からもありましたとおり、教育をめぐる環境は日々変化し時代の移り変わりで新たな視点が出てくるので、それぞれに対応できるように情報発信をしながら学校づくり、指導内容等の準備を進めていきたいと思えます。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

- 引き続き、積極的に教育現場の実態把握に努められることを望む。
- 学校の統廃合、学習指導要領の改訂など、今後様々な変化に直面することから、情報提供・学習の場の一層の充実を望む。

2. 施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性～

【重点テーマ1 自ら学ぶ意欲を育てる教育】

施策（大項目）1 生きる力につながる確かな学力を育む教育の充実

伊井副委員長

村中委員長と私からの意見と質問になりますが、No.4は指導力、No.5、6が家庭との連携、No.7、8、9が学力についてとなっています。

村中委員長からは、

(No.4)「指導力向上のため、今後も指導方法やマニュアルの研修を深めていくことを望む。」

おそらく教職員研修やサマーセミナーの部分になると思います。

(No.5)「家庭や学校、行政が一体となって学習意欲を向上させる対応をしていくことを望む。」

(No.6)「進学が楽しみになるような情報を提供し進学への不安を取り除くことを望む。」というご意見をいただいております。

私のほうからは、1点質問と2つの意見なのですが、

(No.7)「CRTテストについて、同じ母集団の経年データの比較を行っているのでしょうか？」

点検評価の報告書では、同じ母集団ではなく、単体での指標だったので、おそらく経年分析はされているだろうとは思いますが、このあたりについて質問したいと思います。これに関連して、

(No.8)「全国学力調査データとの比較など、より有効性のあるデータ比較を望む」

という意見でありまして、このような比較が学校教育関係にどのように反映されているのか合わせてお答えいただきたいと思います。そして最後に、

(No.9)「次期学習指導要領における学力観の変化も見据えた政策を実行されることを望む。」ということですが、これについて事務局からお願いします。

濱本生涯学習部参事（指導担当）

CRTテストに関しては、小学校1年生から中学校2年生まで行っています。

成果指標については、ご指摘いただいたとおり単年の分析となっておりますが、経年でのデータの比較の必要性はありと考えており、分析も行っております。

また、学校の先生方にも分析結果をフィードバックしております。

伊井副委員長

全国学力調査とのデータ比較も行われているということですのでよろしいですか？

濱本生涯学習部参事（指導担当）

各学校とも連携して分析し、学校改善に役立てております。

伊井副委員長

ありがとうございます。No.7と8については、すでに行われているとのことなので報

告書には記載しない扱いとし、No.4、5、6、9を掲載することとしますが、No.6の「進学が楽しみになるような情報を提供し進学への不安を取り除くことを望む。」ということが掲載されるとなれば、何らかのレスポンスが必要になってくるかと思いますが、このまま掲載しても大丈夫ですか？事務局から補足説明ありますか？

濱本生涯学習部参事（指導担当）

小学校から中学校への進学で言いますと、中1ギャップを防ぐ取組としては、小中連携の会議を4月から始めて、定期的に行っているところです。実際に小学校の児童が中学校の授業や部活動を見たり、説明会のときに体験授業を行ったりですとか、そのようなことを通して不安を取り除いて行く方法でどの中学校区も進めているところなので、実際に現在やっているというところがあります。

伊井副委員長

それでは、「進学への不安を取り除く取組を一層推進することを望む。」というような表現のほうが良いですね。合わせてNo.5の「家庭や学校、行政が一体となって学習意欲を向上させる対応をしていくことを望む。」についても、すでに行っておられますか？

濱本生涯学習部参事（指導担当）

教育委員会が中心となって、各家庭と学校を結ぶような取組を進めております。また、No.9の「次期学習指導要領における学力観の変化も見据えた政策を実行されることを望む。」という部分についても現在進めている状況です。

伊井副委員長

それでは、No.5、6は取組を一層推進するというような文言を事務局で追加していただきたいと思います。No.9は今後実施されるという文言で将来についての表現となっているのでこのままの記載をお願いします。

（上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。）

- 指導力向上のため、今後も指導方法やマニュアルの研修を深めていくことを望む。
- 家庭や学校、行政が一体となって学習意欲を向上させる対応を一層推進していくことを望む。
- 進学が楽しみになるような情報を提供し進学への不安を取り除くことを一層推進していくことを望む。
- 次期学習指導要領における学力観の変化も見据えた政策を実行されることを望む。

施策（大項目）2 一人ひとりを大切にした教育活動の充実

伊井副委員長

村中委員長からの意見で
(No.10)「支援の必要な児童生徒には必ず個別の指導計画が作成されることを望む。」

私からの意見で

(No.11)「専門的な知識を持つ人だけでは対処できない問題でもあるため、一般教員、保護者との協働体制が構築されることを望む。」

これも先程の項目と同じように既に実施されているものかと思いますが、事務局から補足いただけますか？

森特別支援教育担当課長

まず、個別の指導計画についてですが、特別支援学級での個別の教育支援計画作成はかなり位置づいているのですが、通常学級のほうに支援が必要な子どもが増えてきている現状ですので、より一層個別の指導計画を作成することは、研修、巡回相談等で推進していきたいと思います。また、2点目については、支援の必要な子どもの関係者が集まる支援会議というのが定着していて、関わる先生方や福祉の事業所の方、時には医療機関の方にも来ていただいて、支援の方策や協力体制を築いており、今後とも推進していきたいと思います。

伊井副委員長

それでは、村中委員長からのNo.10については、「通常学級」という文言を含めて、「必ず」となると設定が厳しくなるということもあるかと思いますが、「通常学級においても支援の必要な児童生徒には個別の指導計画が作成されることを望む。」という表現とします。

No.11については、「専門的な知識を持つ人だけでは対処できない問題でもあるため、関係する教員、保護者との支援会議等を通じた協働体制が一層推進されることを望む。」というように修正します。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

○通常学級においても支援の必要な児童生徒には個別の指導計画が作成されることを望む。

○専門的な知識を持つ人だけでは対処できない問題でもあるため、関係する教員、保護者との支援会議等を通じた協働体制が一層推進されることを望む。

施策（大項目）3 独自性が発揮できる魅力ある学校づくりの推進

伊井副委員長

村中委員長からは、

(No.12)「今後も地域の人材や特色を生かした学校づくりを望む。」

私からは、質問として

(No.13)「サマーセミナーなどでは、多様な講座だけではなく、その研修方法にも工夫をされたとのこと、素晴らしいです。その際、参加した教職員からのアンケート調査は実施されているのでしょうか？」

No.14 は向田委員からお願いします。

向田委員

(No.14)「新たな学校運営については、学校と地域の双方が理解、協力し合える体制となるよう、引き続き必要な支援と情報提供を望む。」

小中一貫校やコミュニティ・スクールへ移行していくことが今後の流れとなっていくかと思います。石狩市でもこれらを取り入れられるように、学校と地域がより一層理解、協力し合う体制が必要だと思いますので、引き続き情報の開示をお願いします。

伊井副委員長

では、この3点について事務局からお願いします。

濱本生涯学習部参事（指導担当）

サマーセミナーにおいて、教職員のアンケートは実施しております。教育委員会として先生方に受けて欲しい項目とアンケートでの意見を踏まえて検討し、次年度のサマーセミナーの計画を作成しております。

伊井副委員長

アンケートの結果としては、概ね良好で研修内容が学校での指導に活かされているといったものが多いですか？

濱本生涯学習部参事（指導担当）

アンケートの回収率は95%で、「充実したものか?」「今後の実践に役立つか?」という問いに対しては前向きな回答が90%を占めました。今後も石狩の特色のある研修活動として努力していきたいと考えています。

伊井副委員長

研修内容を如何に現場に役立てていけるかというのが本当に重要な部分ですね。

濱本生涯学習部参事（指導担当）

向田委員もおられますが、アクトスポーツプロジェクトにご協力いただいて、体力向上の研修を行ったのですが、学校にも呼んで欲しいという要望があるなど、学校の指導に還元できる講座が多くありますので、講座を機会に各学校での研修活動が深まっているのではないかと思います。

向田委員

2年連続でサマーセミナーの体力向上という講座を担当しまして、スタッフも勉強になりましたし、こちらからのちょっとした提案も素直に受け止めてくれるなど、先生方が真剣に取り組む姿に感動しました。先生方との繋がりがもてたということは、すごく大きな収穫だったので、今後も良い関係が続くようにスタッフも努力したいと思います。

伊井副委員長

これをきっかけに人脈が広まっていくというのも、すごく良いことだと思います。次に、No.12 の特色を生かした学校づくりについて、事務局からお願いします。

安崎総務企画課長

学校の教育活動において、様々な場面で地域の方の力が不可欠になってきております。学校においても地域の自然や歴史・文化・産業など石狩の教育資源を活用しながら、特色ある教育活動を進めているところです。市教委としても、それらの学校の取組をこれからも応援していきたいと考えております。また、新たな学校運営という面では、平成 32 年に厚田小中学校の統合に関して、義務教育学校の開校を目指しております。現在、設立準備委員会を立ち上げてソフト・ハード両面から新たな学校像というものを地域と共有しながら進めていくこととしており、会議についても公開として地域にもその内容を発信していくことを確認しているところです。地域の協力なくしては義務教育学校やコミュニティ・スクールを進めていくことは叶わないことから、地域の方々に学校の応援団になっていただけるように努力していきたいと思っております。

伊井副委員長

今後もそういった取組を進めて欲しいと思います。

先程の研修の部分とも関連しますが、先日、企業内研修などを専門にしている東大の中原さんの講演会に行ってきたのですが、印象に残った言葉がありまして、「イメージは決してマネージ出来ない」ということをおっしゃっていて、こういった地域連携をされる時も「理念」などの「思い」は大切なのですけれども、その「思い」をうまくマネージできるかとなると、具体的な施策が無ければマネージ出来ないのだということに繋がってくるのではないかと思います。研修活動や地域連携いずれも共通することだと思うので感想として述べさせていただきます。

それでは、このNo.12 はこのまま掲載したいと思っております。

No.13 のサマーセミナーについては、質問で良いかと思っていたのですが、石狩独自の特色ある取組なので、なお一層の充実を望むという表現で掲載していただきたいと思っております。

No.14 の向田委員の意見については、このまま掲載ということでお願いたします。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

- 今後も地域の人材や特色を生かした学校づくりを望む。
- サマーセミナーは、多様な講座だけではなく、その研修方法にも工夫をされ、石狩独自の特色ある取組なので、なお一層の充実を望む。
- 新たな学校運営については、学校と地域の双方が理解、協力し合える体制となるよう、引き続き必要な支援と情報提供を望む。

施策（大項目） 4 学校教育を推進する環境の充実

伊井副委員長

村中委員長から3点

(No.15)「パソコンの充実と活用の工夫のための研修が行われることを望む。」

(No.16)「予想を超える暴風雪時の登下校方法についても考慮されることを望む。」

(No.17)「奨学金については、今後も充実したものとなることを望む。」

私のほうから1点、厚田・浜益地区を想定した意見ですが、

(No.18)「高校就学のために、家族で地域から離れてしまうようなケースを抑制する取組がなされることを望む。」

No.19 は向田委員からお願いします。

向田委員

(No.19)「子どもの安全確保の観点から、スクールバスの適正な配置と、校舎等の修繕・管理を望む。」

スクールバスは厚田・浜益など遠くから通学しなければいけない現状の中で、交通手段が少ない地域なので、効率よくスクールバスを活用できるようにしていただけたらと思います。また、校舎修繕については、私は学校開放で良く花川北中学校に行くことがあるのですが、娘たちが通っていた時は学校の中が暗くて汚れていたりして、学校自体も荒れていた時代でした。現在は学校の中がきれいになっていて、花川北中学校の先生とお話する機会があって伺ったのですが、学校の雰囲気も良くなっているとのことでした。校舎がきれいだと子どもたちの心もきれいになるのかなというところもあったので、お金をかけて新しくするというのではなくても、校舎の整備は必要であると思います。

伊井副委員長

環境整備イコールお金がかかるものでありますけれども、事務局の見解をお願いします。

安崎総務企画課長

スクールバスについては、安全確保の観点から出来る限り地域事情を考慮して運行していきたいと考えています。校舎の修繕等については、予算の都合もありまして全てをすぐにといいふうにはなりません、学校の教育活動に支障が無いよう計画的に修繕を行っていければと考えております。

伊井副委員長

No.17、18 についても財政面に関わりがあるかと思いますが、奨学金ですとか、私からのNo.18 では抑制とかかかっていますが、厚田・浜益から高校に通うとなると、義務教育を離れてしましますが、他の地域の子どもたちよりも交通費や場合によっては下宿をするケースもある訳で、奨学金等幅広い視点もあるかと思いますが、何か教育委員会とし

ての施策等はこれまで行われている若しくは検討されているものなどありますか？

菅原学校教育課長

パソコンの充実や奨学金については、ご指摘のとおり予算が関わってくる部分なのですが、限られた予算の中で出来る限りの充実を図っていきたいと考えております。副委員長からご指摘の厚田・浜益などの地域から離れてしまうということに関しては現在具体的な施策は行っておりません。

伊井副委員長

おそらくNo.18 については、教育委員会だけではなくて、他の部署や財政状況などが関わってくるかと思います。9月に浜益の小規模集落に社会調査に入り、高齢者の方からお話を聞かせていただいたのですが、一様に学校のときの思い出話を皆さんが嬉しそうに話されるのです。改めて小規模集落や遠隔地では学校が核となっているのだなと感じた次第です。短期的に何か出来るというわけではないかと思いますが、是非こういったことも念頭に置きながら施策等をお考えいただけたらと思っております。

No.15 のパソコンの部分については、研修はサマーセミナーなどで行われているのですか？

菅原学校教育課長

毎年ではありませんが、研修項目としている年もありますので、今後も研修項目のひとつとして継続していきたいと考えています。

伊井副委員長

No.16 の予想を超える暴風雪時の登下校についてですが、マニュアル的なものは各学校にはあるのですか？おそらくすでに考慮されているとは思いますが、この辺りのニュアンスはこのままの記載でよろしいですか？

濱本生涯学習部参事（指導担当）

津波や火災などのマニュアルはあるのですが、暴風雪については、それぞれの地域ごとに対応の流れを確認できるものを持っております。

佐々木生涯学習部長

予想を超えるという部分があり、最近の異常気象のことを想定されていると思いますので、そういった場合には登下校をしないで学校で待機ということも考えられますので、暴風雪時の対応方法という文言でまとめていただければと思います。

伊井副委員長

では、「登下校方法」という文言を「対応方法」とすることにしたいと思います。

No.17、18 の奨学金については、「充実したもの」という記載を残すと厳しいでしょうか？

佐々木生涯学習部長

これは、「充実」という文言をどう捉えるかで、現在市教委として取り組んでいる方法はターゲットを高校に絞って該当する人には出来る限り手当てするとしていて、選択と集中というのをより進めて行くことを「充実」と考えるのであればこのままの記載で良いと思います。集中ではなくてもっと対象者を広げて行くというふうになると、奨学金制度改正の議論などもありますので、基礎自治体だけで何かをするというのは一定の限度が出てくるだろうと考えます。

伊井副委員長

範囲を広げるといのは、「拡充」となりますので、情報提供も含めて「充実」という表現に修正したいと思います。

No.18 については、短期的にというニュアンスではないのですが、具体的な施策が難しい部分かと思しますので、広く捉えてNo.17 の奨学金の記載に合わせたいと思います。

No.19 に関してはこのままの記載をお願いします。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

- P Cの充実と活用の工夫のための研修が行われることを望む。
- 予想を超える暴風雪時の対応方法についても考慮されることを望む。
- 奨学金については、情報提供も含め、今後も充実したものとなることを望む。
- 子どもの安全確保の観点から、スクールバスの適正な配置と、校舎等の修繕・管理を望む。

**【重点テーマ2 思いやりと豊かな心・健やかな体を育む教育】
施策（大項目）1 豊かな人間性と感性を育む教育の推進**

伊井副委員長

村中委員からは4点

(No.20) 「スタートプログラム「おしゃべランド」と共に行っている「くるりんぱ」についての意義も分析・評価されることを望む」

(No.21) 「学校独特の芸術的な取組についても支援されることを望む。」

(No.22) 「いじめの早期発見・早期対応で増加した件数については、今後の対応で減少させることを望む。」

(No.23) 「問題を抱える児童生徒には、今後も関係機関との素早い対応を望む。」

私からは

(No.24) 「いじめや不登校などの問題については、教育委員会と学校だけではなく、今まで以上に、NPO などの幅広い組織と連携し、課題の解決を一層目指して行くことを望む。」

向田委員からNo.25 についてお願いします。

向田委員

(No.25)「部活動については、部員数の減少や指導者の不足などの現状に合わせて、大会参加規定を変更するなど柔軟な対応を望む。」

中学校の部活動の特に団体種目が、学校単位で成り立っていないと伺いまして、他の中学校と合同で行うなどの工夫はされているのですが、やりたい種目を中学時代に出来ないという環境で、中体連という目標を持って部活動を取り組むときにあまりにも遠い中学校との合同チームとなると練習する時間も限られてしまうので、中体連の開催の仕方や要項を工夫する必要が今後出てくるのではと感じました。

伊井副委員長

それぞれの委員からの意見、学校での部活動や芸術活動に関して、事務局から補足説明などございますか？

濱本生涯学習部参事（指導担当）

部活動については、部員数が少ないことの対応として野球とソフトボールで合同チームを作って行っているのが現実です。大会の規定変更の部分については、中体連などは上部組織で決定しているのでそれを石狩市で変更するという事は出来ないのですが、どのように合同チームを組んだら有効なのか各部活動での打ち合わせ会議などで情報交換しながら出来るだけ子どもたちが部活動に参加できるような体制作りに努めていきたいと思っております。

東生涯学習部次長（社会教育担当）

芸術的な取組の部分については、情操教育プログラムのなかでさまざまな取組を行っておりますが、学校独特な芸術的な取組というものが「伝承文化」を指しているのであれば、厚田の「獅子舞」や浜益の「沖上げ音頭」などがありまして、これまでも支援を行っておりますのでこれまで同様に継続していきたいと考えています。

開発教育支援センター長

いじめの件数については、今回増えておりますが、ご意見にも記載のあるとおり早期発見、早期対応を関係者が取り組んだ成果であると考えております。子どもたちや先生がいきいきとして居心地の良い場を作ることが大切であると認識しておりますので、今後も丁寧な対応を進めていき、いじめの減少に繋げていきたいと考えています。

いじめや不登校についての幅広い連携の部分については、子どもたちや保護者から寄せられた悩みや相談に対して、学校の先生や校長、教頭の意見も勘案して、スクールソーシャルワーカーなどの専門家を交えて意見交換や情報交換をして、必要があれば市の関係部署、警察、地域住民、町内会、児童相談所などに繋いでより良い改善策を見出して行くように努めております。

伊井副委員長

No.20 については、いかがでしょうか？

東生涯学習部次長（社会教育担当）

情操教育プログラムで、小学校1年生に向けてスタートプログラム、中学校1年生に向けてセカンドプログラムという形で、アートウォームを会場に行っております。

「おしゃべランド」は市の小学校1年生約500名に、音楽朗読劇を観覧してもらいます。それと合わせてユネスコ協会の皆様にご協力いただいて「くるりんぱ」という絵の上下を入れ替えると馬がペンギンに見えるなど、物の見方は一つではないということを伝えるといったことを行っています。この情操プログラムで感動した児童生徒のパーセントの中には、「くるりんぱ」の部分も含んでおります。今回報告書への記載はありませんが、今後調整したいと思います。

伊井副委員長

No.20については、このままの記載でお願いします。

No.21の学校独特の芸術的取組については、後日事務局と村中委員長で調整していただくということでお願いします。

※後日村中委員長に確認し、「伝承文化など学校独特の芸術的な取組についても支援されることを望む。」と記載することとした。

No.22、23については、このままの記載でお願いします。

No.24については、「NPOなどの」を削除して、「幅広い組織・専門家と連携し」としたほうが、先程の説明と合致するので修正をお願いします。

No.25については、「大会参加規定を変更するなど」の部分削除するよう修正をお願いします。

（上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。）

- スタートプログラム「おしゃべランド」と共に行っている「くるりんぱ」についての意義も分析・評価されることを望む
- 伝承文化など学校独特の芸術的な取組についても支援されることを望む。
- いじめの早期発見・早期対応で増加した件数については、今後の対応で減少させることを望む。
- 問題を抱える児童生徒には、今後も関係機関との素早い対応を望む。
- いじめや不登校などの問題については、教育委員会と学校だけではなく、今まで以上に、幅広い組織・専門家と連携し、課題の解決を一層目指して行くことを望む。
- 部活動については、部員数の減少や指導者の不足などの現状に合わせて、柔軟な対応を望む。

施策（大項目）2 心身の健やかな成長を促す教育の推進

伊井副委員長

村中委員長からは2点、

(No.26)「市民スポーツまつりに中学生の参加が増えていることは良い傾向だと思います。」

(No.27)「子育てで市民が工夫していることなどが、広く周知されるような取組がなされる

ことを望む。」

私からは質問で2点、

(No.28)「駅伝やタスキリレー、とても良い取り組みだと思います。小規模校は合同チームなどの編成で対応されているのでしょうか？」

(No.29)「防災教育などは、この項目に入るのでしょうか？何処かで、目標として設定する必要があると考えます。」

No.30 について、向田委員からお願いします。

向田委員

(No.30)「スポーツまつりを契機とした各学校での駅伝の取り組みはとても良いことだと思います。」

小学校が学校対抗で駅伝を行うという機会は中々無いと思います。それが石狩市ではスポーツまつりで出来て、市内の小学校が同じ目標に向かって切磋琢磨できるというのは本当に良い機会だと思うので今後も継続していただきたいと思います。

伊井副委員長

それではまず質問に対しての事務局からの回答をお願いします。

安崎総務企画課長

駅伝やタスキリレーについては、運動が体力づくりに役立つということで、市教委でも推奨していて、子どもたちも意欲的に取り組んでいて、年々学校からの参加チームも増えております。ただ小規模学校ではチーム編成が難しいというのが現状で、小学校で1チーム7名、中学校で1チーム5名必要となっていて、加えて走ることに自信のある人となりますので、現在厚田と浜益からは厚田小学校の1チームのみとなっております。部活動のように1年を通した取り組みではないので、合同チームというのは組めていない状況です。

濱本生涯学習部参事（指導担当）

防災教育については、安全教育の充実の支援の項目に入ります。避難訓練については、火災、地震、津波、学校によっては不審者対策を含めた訓練を小中学校で100%実施しております。避難訓練の後に防災学習も行っております。また、学校によっては災害に関する防災学習も別時間に行っております。各学校では社会や理科や家庭科の項目で防災学習を行っているのが現状なのですが、全体計画の中で位置づけられているというのは少ないのが現状です。どのような観点でどの程度までという目標設定が現状では難しいところありますので、今後検討していきたいと考えています。

伊井副委員長

No.28、29 の私からの質問に関しては、お答えいただいたので報告書へは記載しません。村中委員と向田委員のスポーツまつりについての感想については、プラスの評価として「スポーツまつりでの駅伝等の活性化は非常に評価される」と残していただくよう

お願いします。

No.27 については、子育て支援の部分なので、村中委員長のお考えを確認したうえで、後日調整いただきたいと思います。

※後日村中委員長に確認し、教育委員会だけで取り組める内容ではないので報告書への記載はしないこととした。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

○市民スポーツまつりでの駅伝等の取組活性化は非常に評価される。

【重点テーマ3 地域で育ち・学び・生きる教育】 施策（大項目）1 次代を担う子どもたちの健やかな育ちの支援

伊井副委員長

村中委員長からは

(No.31)「子どもの安全を守るため、今後も各関係機関との連携が図られることを望む。」

私からは

(No.32)「不審者情報について、メール以外の SNS の活用状況はいかがでしょう？」

昨年も意見したかと思いますが、現在の保護者世代はメールよりも SNS ではないかというところがありまして、この辺りの進捗状況や新しい取組があるかの確認をしたいのでお願いします。No.33 は意見となります。

(No.33)「子どもの見守りについては、昔ながらの町内会や住民同士の繋がりが、一層活用されることを望む。」

事務局からご説明等お願いします。

開発教育支援センター長

まず、子どもの安全確保の部分と町内会や住民同士の繋がりの部分についてですが、通学路の安全対策の取組としましては、スクールガードによる地域の見守り、或いは子ども 110 番の家などで学校・地域と連携しながら交通安全、防犯などを行っております。今後も引き続き町内会や老人クラブなどとも連携して取り組んでいきたいと考えています。次に、不審者情報のメール以外の SNS の活用状況については、市のメール配信状況としましては、不審者情報などを受けた際に各担当課でメールを配信しています。また、緊急災害情報と道路公園上下水道情報に関してはツイッターでの配信も行っております。不審者情報は市長部局の広聴・市民生活課で一元管理されメール配信しており平成 28 年 9 月末の登録者は 1,122 件となっております。ご指摘のとおりメール配信だけではなくツイッターやフェイスブックなどの SNS を利用したほうがより有効であると認識しておりますので、今後の検討課題といたします。

伊井副委員長

私は LINE なども含めて SNS と捉えていたのですが、登録者というのは保護者の何%くらいなのですか？ 大部分を占めているのかごく僅かなのか？

開発教育支援センター長

申し訳ございません。登録者の内訳については、把握しておりません。

伊井副委員長

幅広い保護者の方に情報が伝わるのであれば、メールでも何でも良いと思うのですが、子どもの安全確保に関する適切な情報伝達手段を時代に合わせて検討していただきたいと思います。私も大学生と連絡のやり取りをしているとメール送信しても返信が来ないことが多く、LINE で送るとすぐに返信が返ってくるのです。

そういった時代の変化にも対応していただきたいと思います。

それでは、No.31 と 33 はこのままの記載で、No.32 に関しては「子どもの安全に関する情報について、様々な情報提供の方法を模索して欲しい。」という意見で記載願います。他に何かございますか？

佐々木生涯学習部長

SNS については、市役所の中のセキュリティの関係でアカウントを誰に付与すれば良いかなど、整備が進んでいない部分がありまして、時間を要するかと思いますが、今後も継続して要請していきます。

伊井副委員長

幅広い意味で捉えていただければと思いますが、大学などではポータルサイトを利用して登録者に一斉配信などがあるのですが自治体レベルでポータルサイトの利用などはあまり無いですね？

佐々木生涯学習部長

行っている自治体もあるとは思いますが、どのように行っているのか研究しないといけないというところです。

向田委員

うちのクラブでは専用アプリを使っています。伝えたい情報があれば LINE のようにすぐに表示されるので、メールよりも開いてもらえて開封率も把握出来ます。

伊井副委員長

そうですね。開封しているかどうか解るものもあるので、伝えたい側にとっては非常に有効だと思います。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

- 子どもの安全を守るため、今後も各関係機関との連携が図られることを望む。
- 子どもの安全に関する情報について、様々な情報提供の方法を模索して欲しい。
- 子どもの見守りについては、昔ながらの町内会や住民同士の繋がりが、一層活用されることを望む。

施策（大項目）2 地域づくりに活かされる生涯学習環境の充実

伊井副委員長

村中委員長からは、

(No.34)「ユネスコ精神に基づいた教育が進められているが、ユネスコスクールとしての教育活動を大切にしたい。」

ユネスコ関係では私からも

(No.38)「ユネスコスクールの活動報告の場の一層の充実を望む。」

また、村中委員長から、

(No.35)「道の駅は石狩市の良さと特色をアピールできる場となることを望む。」

私から、

(No.36)「市民カレッジは石狩が誇る生涯学習団体なので、石狩市内外の方々への広報活動の強化を望む。」

質問として、

(No.37)「生涯学習活動を行っていますか?」という調査の数値の振れ幅は、なぜ毎年、こんなに大きいのでしょうか?」

これは、対象が違っているのでしょうか?仮設で構いませんのでお答えいただければと思います。

No.39は向田委員からお願いします。

向田委員

(No.39)「より良い地域づくりのために、子どもと高齢者が互いに関わりあえる機会を増えることを望む。」

子ども達が抱えている問題も高齢者が抱えている問題も中身は同じなのではと個人的に思っていますし、子どもも話し相手を求めていますし、高齢者も話し相手を求めています。両方の世代に関わっているのですごく感じているところです。お互いが共生できる場があったならば相乗効果は大きいと思いますし、今までの概念にとらわれず、お互いに関わりあえる社会作りを、教育委員会を通して作っていただければ子どもに対しても効果があるのではないかと思います。

伊井副委員長

教育だけに関わらず地域づくりの面からということだと思うのですが、まず私からのNo.37の質問に関してお答えいただきたいのでお願いします。

東生涯学習部次長（社会教育担当）

結論から言いますと分析が難しいのですが、想定すると経済状況や社会状況などが要因となって、例えば退職されたすぐの時点と数年たった時点とでは状況も変わりますし、母集団や回答率も差がありますから回答数が少ないと一人の意見で割合に大きく影響してしまうこともあるのではと考えております。いずれにしても市民カレッジを中心とした学習機会の提供というのはしっかりと継続していきたいと思っております。

伊井副委員長

機会の提供と合わせて広報活動もよろしく申し上げます。その他の意見についてもご説明をお願いします。

東生涯学習部次長（社会教育担当）

ユネスコスクールは、生振小、双葉小となっております、今年新たに中学校で2校について申請する段階になっておりますので、ユネスコ協会と連携して支援をしたいと思っております。活動報告の場については、生振小がESD教育のモデル校となっております、近隣の学校を含めて発表の場がありましたし、そのほかユネスコ協会の取組で「わたしのまちの宝物絵画展」などがあります。こういった場以外にも活動の報告が出来るようユネスコ協会とも話し合いながら進めて参りたいと考えております。

合わせて市民カレッジについてですが、ご意見いただきましたとおり石狩市が誇る生涯学習団体であり、今回の市制20周年の式典でも表彰をいただいております。市内外の広報活動としましては、札幌市の「かでの2.7」で2週間程度パネル展を実施しております。市内でも花川北・花川南のコミュニティセンターにおいて活動の様子を掲示し、公民館まつりでも登録の案内も含めて周知の場を設けております。また、道民カレッジと連携して講座を行っているので道民カレッジ加入者にも活動状況が伝わっております。ホームページへの掲載についても講座終了後素早く更新しているなど、周知に関しての取組は一定程度されているものと考えておりますが今後についても市民カレッジ運営委員会とも相談しながら進めて参りたいと考えております。

伊井副委員長

No.35と39に関しては、地域づくりなど幅広いものなのですが、いかがでしょうか？

東生涯学習部次長（社会教育担当）

No.39についてですが、生涯学習活動の中でということで申し上げますと、「学校支援地域本部事業」というものがございまして、学校の活動を地域の方に支援をしていただくという国の制度でして、石狩市でも取り組んでおります。平日の日中に子どもたちへ何らかの支援をするとなるとこの事業が合致することになると思っております。現在石狩市の小中学校10校で実施しております、一例を挙げますと掛け算九九の検定員として退職された地域の方にボランティアで来ていただいて子どもたちと交流しながら学習を深めていくというものです。このような取り組みをさらに進めることにご意見いただいた部分にも繋がるのではないかと考えております。

工藤文化財課長

No.35についてですが、教育員会で道の駅に関わる部分として展示施設を設置するという計画が進んでおります。展示施設では厚田出身の子母沢寛という文学者をはじめとした文化人についての展示や、道の駅ということを生かして厚田を中心とした地域の自然地形、景観、歴史的建造物といったものを、現地で見いただくためのスタートポイントとなるような仕掛けをしていきたいと考えています。

伊井副委員長

それではNo.34 と 38 はユネスコスクールに関する事なので「ユネスコスクールとしての教育活動及び活動報告の場を大切にしたい。」という形でまとめてください。

No.35 に関しては、教育・文化の部分についての意見となるようにしたほうがよろしいですか？

佐々木生涯学習部長

おそらく社会教育施設の部分でのご意見かと思しますので、社会教育的な趣旨が伝わるように文言を追加していただければと思います。

伊井副委員長

それでは「道の駅は石狩市の良さと特色を展示などでアピールできる場となることを望む。」という記載とします。

No.36 は「強化」となると難しい部分もあるかと思しますので「推進」と修正して記載するという事をお願いします。

No.39 はこのままの記載をお願いします。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

- ユネスコ精神に基づいた教育が進められているが、ユネスコスクールとしての教育活動及び活動報告の場を大切にしたい。
- 道の駅は石狩市の良さと展示などで特色をアピールできる場となることを望む。
- 市民カレッジは石狩が誇る生涯学習団体なので、石狩市内外の方々への広報活動の推進を望む。
- より良い地域づくりのために、子どもと高齢者が互いに関わりあえる機会が増えることを望む。

施策（大項目）3 学習の拠点としての図書館サービスの充実

伊井副委員長

私から2点ですが、

(No.40)「市民図書館ではありますが、石狩の「良さ」を市外の方々にアピールする拠点でもあると考えます。石狩市外に居住する利用登録者のデータも掲載していいのではないのでしょうか？」

市民の登録者数もちろんなのですが、市外の方の登録者も一定数いると思います。行政評価としては、市民が対象になるのですが、もっと幅広い意義もあるのではないかと思います。思い質問しました。

(No.41)「図書館と学校との連携が今まで以上に強化されることを望む。」

事務局から説明をお願いします。

清水図書館副館長

まず、No.41 についてですが、今年度小学校の学校図書館の人的整備がひとまず完了しました。今後についてはその体制をどのように生かしていくかということになりますので、強化していくというよりは、充実させていくというイメージを持っていただくとありがたいです。

No.40 については、市民図書館は市外の方からもたくさんご利用いただいている、評価もされている開かれた図書館ではありますが、現行の教育プランでは、まずは市民の登録を進めるということで記載をしているところでして、今回ご提示いただいた視点については、次期プランの策定時に検討していきたいと考えています。

伊井副委員長

実際には何割くらいの市外からの登録があるのですか？

清水図書館副館長

5 割弱です。

伊井副委員長

市外からも非常に評価されているというポジティブな部分ですので、No.40 の質問にあるデータの掲載の部分を削除して、「市民図書館ではありますが、石狩の「良さ」を市外の方々にアピールする拠点でもあることを望む。」

No.41 に関しても「強化」の部分を「充実」に修正して記載をお願いします。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

- 市民図書館ではありますが、石狩の「良さ」を市外の方々にアピールする拠点でもあることを望む。
- 図書館と学校との連携が今まで以上に充実されることを望む。

施策（大項目） 4 石狩文化の活用による自主的・主体的活動の支援

伊井副委員長

村中委員長からは、

(No.42) 「市民文化祭はレベルの高い作品だけではない市民の手作りの展示がとても良いので、特色あるイベントも加えて、多くの人に参加するようなPRを望む。」

私からは、

(No.43) 「市民文化祭の入場者増加分の内訳を分析し、一層の増加を望む。」

(No.44) 「厚田や浜益の特色のある「文化」の振興が地域の活性化にも少なからず影響するので、一層の支援を望む。」

No.45 について向田委員をお願いします。

向田委員

(No.45) アートウォームを利用した芸術文化活動が、より活発となることを望む。

昨年も同様の意見を述べたのですが、市内に気軽に立ち寄れる美術館が無いので、常設ではなくても、気が向いたときに芸術に触れられる場として、アートウォームの芸術活動が活発になることを心から望んでいます。

伊井副委員長

事務局から説明等お願いします。

東生涯学習部次長（社会教育担当）

No.42 についてですが、ホームページや新聞折り込み、市広報や新聞記事も含めてPRは相当行っているところです。特色あるイベントについては、ここ数年は市民手作りの文化祭ということで、市内の皆さんのアイデアで集客も行っていて、今年は書道のパフォーマンスや舞台のほうでは初めて演じる方とベテランの方が一緒に演じるなど目を引くような特色あるイベントを実施しておりますので、市教委としても一緒に取り組んで参りたいと考えております。No.43 の入場者増加分の分析ですが、舞台部門が500人、クリスマスコンサートで300人くらい増加しております。クリスマスコンサートについては、昨年花川南中学校がライジングサンでテレビ放映されたことで相当注目を浴びたことが要因と思います。舞台部門については、子どもが出る団体が多いと保護者などが観に来るので増加する傾向があると思います。今後もより入場者が増えるような取り組みを今後も続けて参りたいと考えております。

No.44 の石狩地区と厚田・浜益地区との地域間交流をしてお互いの取組を知るといことも大切な文化の交流になりますので、これは継続して参りたいと考えております。

No.45 については、芸術活動施設としてアートウォームは貴重な施設ですので、補助金の交付等でこれからも支援していきます。

伊井副委員長

それでは、No.43 は 42 に含めることも可能なので「多くの人に参加できるような」というところにまとめて、No.42 の記載のとおりをお願いします。

No.44、45 についてもこのままの記載をお願いします。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

- 市民文化祭はレベルの高い作品だけではない市民の手作りの展示がとても良いので、特色あるイベントも加えて、多くの人に参加するようなPRを望む。
- 厚田や浜益の特色のある「文化」の振興が地域の活性化にも少なからず影響するので、一層の支援を望む。
- アートウォームを利用した芸術文化活動が、より活発となることを望む。

施策（大項目）5 ふるさとを学び伝える取組の充実

伊井副委員長

村中委員から

(No.46)「市外にある石狩市を愛する団体との連携も大切にして欲しい。」

(No.47)「「沖揚げ音頭」の映像記録のように貴重な文化遺産は映像として保存されることを望む。」

私から、

(No.48)「資料館は、学校にとっても生きた教材であり、学校との連携を一層強化し、学校外の時間でも資料館に行きたくなるような工夫がなされることを期待する。」

(No.49)「石狩には「遺産」が多くあるので、外部へのアピールを一層強化することを望む。」

No.50 は向田委員からお願いします。

向田委員

(No.50)「文化遺産については、市民グループのほか大学などへ協力を依頼するなど、守り伝え続けるための取り組みが継続されることを望む。」

先日浜益と厚田のほうで説明を聞く機会があって、説明される方々が高齢の方が多く、この先誰がこの文化を守り伝えていけるのかと思いました。市民だけで難しい部分があるのであれば、大学などの機関に協力してもらいながら守っていくことが必要なのではないかと感じました。

伊井副委員長

事務局から、お願いします。

佐々木生涯学習部長

No.46 の石狩市を愛する団体というのは、おそらく「ふるさと会」を指しているのだと思いますが、教育委員会だけでなく市部局も含めて連携を図っております。

工藤文化財課長

No.47 については、映像記録化している伝統芸能は「沖上げ音頭」のほかに浜益川下で行われている「やっこ道中」、厚田の「望来獅子舞」、石狩の「越後盆踊り」があります。この他にも伝統芸能があれば引き続き映像記録化していきたいと思います。No.48 については、学校への出前授業で紅葉山 49 号遺跡などの縄文遺跡について、毎年 2 校程度行っております。合わせて資料館の見学を学校との連携で行っております。ご指摘のように校外の時間にも足を運びたいところですが、これまでは受身の部分があって中学校の壁新聞の取材をなどがあれば来てくださいという感じでしたが、今後はもう少し積極的にアピールしていきたいと考えています。

No.49 については、現在民間のグループで「プロジェクトM」というところでも、石狩遺産を拾い上げ、それを広くアピールする活動をされておりますので、そういった団体と連携しながら進めていく必要があると考えています。

No.50 については、ご指摘のように文化遺産を保持していただいている団体の高齢化

や人口減少で団体の維持継続も難しくなっているというところは認識しています。大学や市外の方も含めて活動を継続するための枠組みを作ることは必要であると考えております。

伊井副委員長

No.46 は「ふるさと会」などを加えて記載していただき、No.47 は「保存」だけでなく「普及」という文言を加えて記載をお願いします。

No.48 はこのままの記載で、No.49、50 は「遺産」という言葉が使われておりますし、外部へのアピールという部分も守り伝え続けるというところに含まれると思いますのでNo.49 を 50 にまとめて記載をお願いします。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

- 「ふるさと会」など、市外にある石狩市を愛する団体との連携も大切にして欲しい。
- 「沖揚げ音頭」の映像記録のように貴重な文化遺産は映像として保存・普及されることを望む。
- 資料館は、学校にとっても生きた教材であり、学校との連携を一層強化し、学校外の時間でも資料館に行きたくなるような工夫がなされることを期待する。
- 文化遺産については、市民グループのほか大学などへ協力を依頼するなど、守り伝え続けるための取り組みが継続されることを望む。

施策全体

伊井副委員長

最後になりますが、全体について、向田委員から何かありますでしょうか？

向田委員

ございません。

伊井副委員長

これらの意見が有効活用されることを望んでいます。

それでは、「報告書に記載する意見」についてですが、本日頂いた意見の最終的な確認については、後日委員長と事務局で調整していただき、調整内容を私と向田委員が確認したうえで確定したいと思いますが、いかがでしょうか

委員全員

異議なし。

伊井副委員長

それでは、これをもって議事を終了したいと思います。各委員の皆さま、ありがとう

ございました。事務局へお返しします。

～ 閉会 ～

安崎総務企画課長

ありがとうございました。本日の審議につきましては、事務局にて整理し、委員長のご確認のもと、議事録としてご報告させていただきます。

また、点検評価報告書につきましては、本日頂きましたご意見を掲載し、10月の教育委員会会議に諮った後、報告書を最終的に決定し、議会に提出、市民に公表したいと存じます。

以上で平成28年度石狩市教育委員会外部評価委員会を閉会します。本日はありがとうございました。

(17:30 終了)

平成28年10月26日会議録確定

石狩市教育委員会外部評価委員会
委員長 村中 誠治